

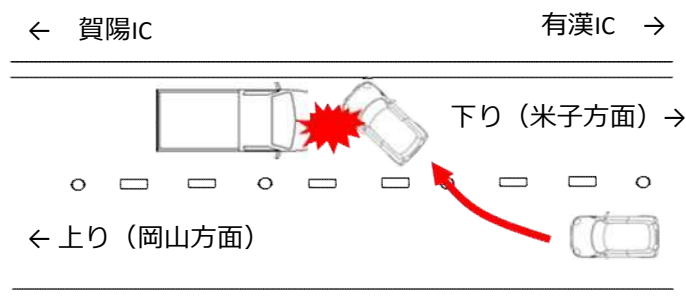
- 車両が対面通行する暫定2車線区間では、車両を上下線で完全に分離している4車線区間に比べ、車両逸脱による正面衝突事故発生の危険性や、死亡事故となる割合、交通事故発生時に通行止めになる割合が高くなります。
- 付加車線事業において、上下線を完全に分離したことで、当該区間のさらなる安全性の向上が図られます。
- 暫定2車線では低速車両の影響により渋滞が発生する場合がありますが、4車線になると低速車両と高速車両が分けられ、渋滞発生の低減が期待されます。

◆ 暫定2車線区間における交通事故による通行止め事例

発生日：平成29年5月

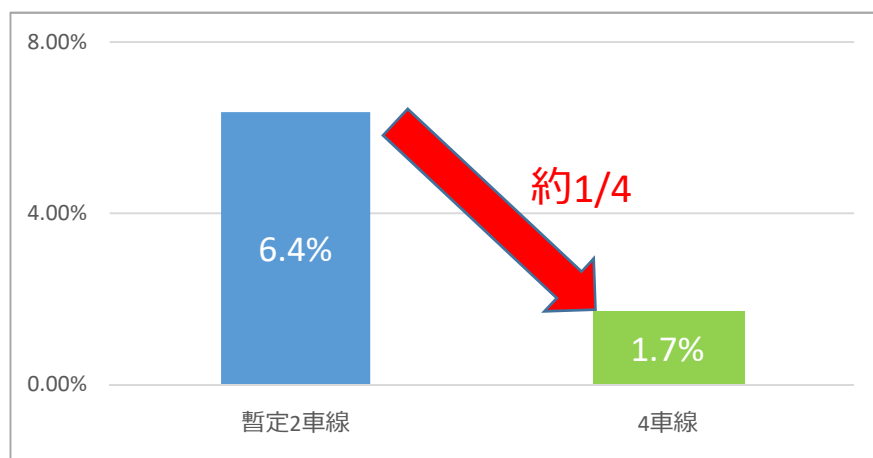
発生場所：E73 岡山自動車道（賀陽IC～有漢IC） 下り線 35.1kp付近

事故概要：有漢IC方面から賀陽IC方面へ向け走行していた車両が何らかの理由で簡易中央分離帯を突破し、対面車線を走行中の対向車両に衝突した。



◆ 暫定2車線と4車線区間の比較

<交通事故発生時に通行止めになる割合>



割合：交通事故による通行止め件数/総事故件数

対象：中国支社管内

出典：NEXCO西日本調べ（集計対象：H28～R2）

上下線を完全に分離したことで、さらなる安全性の向上が図られます